

社内研修の選定

年 月 日 記入者

研修選択シート

2023年10月作成
株式会社 IME コンサルティング

自社に必要な研修を選択・検討します。
各研修の主旨・概要を理解し、自社の状態を考慮して評価し、評価点の高いものを研修実施候補としてピックアップする事が目的です。
複数名で実施して集計される事をお勧めします。 次の要領で、シートの書き込みをお願いします。

①各研修の主旨・概要の理解

研修名と研修の主旨・概要を読み、ご理解ください。

①評価

複数の設問に対する自社の実態についてレベルを考え、5点満点で採点をしてください。
評価は、「興味」「必要性」「影響度」について、次表の基準を参考にして評価点をつけ、合計してください。

項目	考え方	評価点	1	2	3	4	5
興味	自分の興味の大きさ(強さ)		興味はない	少し興味あり	興味はある	興味は大きい	強い興味あり
必要性	研修によるレベルアップの必要性		必要なし	必要性小	した方が良い	必要性大	重要・必須
影響度	研修テーマの会社への影響予測		影響しない	ある程度の影響	影響はある	確実に影響	大きい影響

②メモの記入

評価の理由、自社の実態、気づきなどをメモ欄に記入しておく、検討の際に便利です。

③対応研修名の確認

評価結果で、点数の高いものが研修等での強化が必要な項目と考えられます。
必要と考えられる研修名をピックアップして、実施についてご検討ください。

④集計集約

複数名で行った場合は、結果を集計して、研修テーマと優先順位を検討してください。(合計点が高いほど優先となる)
※ 複数名で回答した場合は集計して、合計点又は平均点を計算してください。
※ また「②気づき・メモ」の記入内容を共有して、集約と対応の検討をするのも有効です。



株式会社 IME コンサルティング
立居場 誠治

(1) 経営に関する研修

研修名 (研修テーマ)	研修の主旨・概要	興味	必要性	影響度	合計	メモ
経営戦略立案	戦略立案は、経営ビジョン・目標の明確化、経営環境調査、将来動向予測、戦略課題抽出(SWOT)、戦略マップ作成、対策考案、計画等のステップと各種戦略の理解が必要です。					
成長戦略と知的資本経営・MOT	製造業の成長戦略は、増収の為に知的資本の有効利用・技術経営(MOT)を考える事が有効です。					
新製品・新事業開発	現行製品のライフサイクルが成熟期・衰退期で構成されている場合、早めの新製品開発が望まれます。また経営目標が高い場合には「新製品」「顧客開拓」「多角化」等の「新しい収入源」が必要です。新製品のアイデアは、既存の何かと何かの新しい組み合わせを見出す事で生み出されます。発想はニーズ、シーズアプローチの他、実際にはアイデア先行、理想追及等があります。					
経営管理・組織管理の基礎 (管理とは何をする事か?)	会社は多くの人が集り団体戦を戦っています。うまく行っていない会社では、組織ガタガタ、管理不備、実務のルール違反、越権行為等が見られます。団体は組織管理がしっかりしていないと「烏合の衆」になってしまいます。組織の縦・横の分業、役割分担、責任権限を明確にし、間を繋ぐコミュニケーションパイプと管理媒体等の仕組みを作り、機能させる必要があります。生産管理、品質管理等すべての〇〇管理は組織管理のルールの下で機能します。変化に応じた組織管理体制の見直しが重要です。					
ISO-品質・環境・安全衛生	・ISO マネジメントシステムの認証取得					
	・不適切部分や組織管理不一致等の是正					
	・更新審査、システム維持管理、統合化検討					
最適生産方式の考え方 (これからの生産管理と変化対応フレキシブル生産)	現在は多品種小量化、短納期化対応の為に、フレキシブル化等の生産体制の見直しが必要です。また人材不足や Web 受注対応、実務や管理の機械化等の必要もあります。さらに人の思考習慣の変化にも対応すべき時代と考えられます。					
機械化・自動化・スマート化	機械化を進めるには、「経営の意図と今後の受注販売環境」「人と機械の最適組合せ」「機械化の前にやっておく事」「機械化検討と優先順序設定」などの検討を行うことが理想です。					

(2) 生産管理に関する研修

研修名 (研修テーマ)	研修の主旨・概要	興味	必要性	影響度	合計	メモ
生産管理の基礎	生産活動を円滑に行うためには、受注に応じた人・設備・材料・手順・レイアウト等の準備が必要です。その上で組織管理の仕組みが理解され、機能している事が前提です。					
課題解決、問題解消	計画実現の為には乗り越えねばならない課題の明確化と対策を行います。実務の問題を発見し対応する管理滑動を行い、指導等が必要なものは、OJTを行う。改善が必要なものは原因・要因究明し是正・予防処置を行う体制が必要です。					
実務の指示・実行の3条件の整備	QCD、5S等の不備の多くは適材適所・指示・管理により防止可能です。間違いのない作業実現には「文書化された手順」「実務者の力量」「管理者の指示・管理」の整備と適切な組み合わせが必要です。					

(3) 実務の管理・改善に関する研修

研修名 (研修テーマ)	研修の主旨・概要	興味	必要性	影響度	合計	メモ
実務の問題・ロスの発見と対策	原価・効率の考え方、実務の問題点の見つけ方、QC7つ道具による問題発見、IE手法によるロス分析、目で見える管理と5S、実務のヒューマンエラーの原因と対策等について学びます。					
5Sと問題発見・対策の体制づくり	5Sの乱れは、管理の問題>ルール設定の問題>遵守の問題で、多くは管理不備の結果で発生した現象です。受注変化・生産実体に応じた5Sルールの設定と、目で見える管理、ナッジ、改善活動等を進め、問題点を見つけて対処する管理活動の徹底で定着させます。					
ヒューマンエラー・ポカミス対策	ヒューマンエラー・ポカミス発生メカニズム(直接要因・過程要因・背景要因)の理解、実態調査、原因・要因追及、是正・予防処置などについて学びます。					
原価マネジメント	組織管理の体系に基づく原価責任の明確化。製品別の利益と原価の把握～原価企画。費目別管理指標設定、ロス改善・管理方法等について学びます。					
IE技法の理解と活用 (ロス分析と現場改善) (指導監督による実施効率向上)	IEの分析手法で、作業のロスを発見し、改善を行う方法の理解＝実施方法(メソッド)の改善。係長・リーダーの指導監督により改善後の実務の効率的運用を図る＝実施効率の管理について学びます。					
品質管理の基礎	顧客満足と適合品質の考え方、問題発見の方法(QC7つ道具)、管理・改善の考え方などについて学びます。					

